

平成31年度 行政評価事業別シート

	<input type="checkbox"/>	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	永井隆広
		全体計画						経費区分		-		内線	3334
事務事業名	4110 健康診査事業												
所 属	100600 健康福祉部・健康づくり課												
施 策	01010100 健康づくりの充実												
予算 科目	会計	01 一般会計											
	科目	040102 衛生費・保健衛生費・予防費											
	事業	040000 健康診査事業											
事業目的						事業概要・効果							
後期高齢者健診、各種がん検診等を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努める。 若年者からの健診の習慣付けと早期の対応						<ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者健診：75歳以上の市民に対し、個別・集団で実施。 ・各種がん検診：対象年齢の市民に対し主に集団で実施 ・乳がん超音波検診や肺がんCT検診を導入するなど、精度の高い検診を行うことにより、早期発見、早期治療に繋げることができる。 ・市民が受診しやすいよう、胃検診・大腸がん検診は地域を巡回して実施している。 ・31年度は、特定健診で20歳から39歳の者まで健診を拡大 							

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
後期高齢者健診の実施 がん検診：がん発見者数 胃5人、大腸9人、乳房2人、マンモグラフィ2人、肺2人、前立腺4人	後期高齢者健診の実施 がん検診：がん発見者数 胃3人、大腸11人、乳房2人、マンモグラフィ2人、肺3人、前立腺5人
平成29年度 実績	平成30年度 実績
後期高齢者健診の実施 がん検診：がん発見者数 胃0人、大腸11人、乳房0人、マンモグラフィ4人、肺2人、前立腺7人	後期高齢者健診の実施 がん検診：がん発見者数 胃X線4人、胃内視鏡7人、大腸8人、子宮がん1人、前立腺6人
平成31年度 予定	令和2年度 予定
各種がん検診の実施 後期高齢者健診の実施 若年者健診の実施	各種がん検診の実施 後期高齢者健診の実施 若年者健診の実施

指標名	胃がん検診の受診率				
算式	胃がん検診受診者数÷胃がん検診受診対象者×100				単位 %
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標値	目標	40	40	40	40
	実績	7.8	4.7	6.9	
指標選定の理由	死亡原因の1位であるがんの早期発見のため検診率の向上を図る必要がある				
最終年度目標の根拠	国の目標値である40%とする				
指標名	大腸がん検診の受診率				
算式	大腸がん検診受診者数÷大腸がん検診受診対象者×100				単位 %
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標値	目標	40	40	40	40
	実績	17.2	10.8	12	
指標選定の理由	死亡原因の1位であるがんの早期発見のため検診率の向上を図る必要がある				
最終年度目標の根拠	国の目標値である40%とする				
指標名	肺がん検診の受診率				
算式	肺がん検診受診者数÷肺がん検診受診対象者×100				単位 %
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標値	目標	40	40	40	40
	実績	15	9.8	9.4	
指標選定の理由	死亡原因の1位であるがんの早期発見のため検診率の向上を図る必要がある				
最終年度目標の根拠	国の目標値である40%とする				

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		113,677	135,332
特定財源	国庫支出金	130	137
	都道府県支出金	2,981	2,921
	地方債	0	0
	その他	10,009	70,574
一般財源		100,557	61,700
人員数(人)	正規職員	0.7	0.8
	嘱託職員	0.2	0.2
	臨時職員	0.2	0.2
人員コスト	正規職員	5,005.0	5,720.0
	嘱託職員	575.0	575.0
	臨時職員	249.0	249.0
	計	5,829.0	6,544.0
市民一人当たりの経費		2.3	2.7
総額		119,506.0	141,876.0

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	800	消耗品費118、食糧費5、印刷製本費677
13節 委託費	95,442	電算委託料2,828、その他委託料92,614
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	7,500	補助金7,500
その他	9,935	賃金531、役員費5,391、使用料及び賃借料1,424ほか

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	974	消耗品費135、食糧費9、印刷製本830
13節 委託費	116,634	電算委託料3,104、その他委託料113,530
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	7,200	補助金7,200
その他	10,524	旅費3、役務費5,000ほか

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	がん早期発見のために定期的ながん検診を受け、重症化を防ぎ、合わせて医療費の削減をするためにも必要。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	検診により、精密検査が必要となり、がんが発見されている。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	胃がん内視鏡検診において早期がんの発見があった。	

振り返り（決算年度の取組み課題）
胃がん内視鏡検診では、早期がんの発見により、早期の治療ができた。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

2次評価

次年度以降の方向性	進め方の改善（拡大）
-----------	------------

総合評価コメント

国の指針に基づき実施している。精度の高い体制により早期がん発見につながってる。
受診率は低いため受診拡大の対策が必要。

2次評価コメント

がんの早期発見につながる事業として効果的。一方受診率が低いことについては、さらなる対策を要する

外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

外部評価コメント

--